令和8年 11 月5日発行

学校だより

第6号

江戸川区立瑞江第三中学校

〈 教 育 目 標 〉

1 自ら学んで、自己を高める生徒 【知性】
2 人を大切にして、共に生きる生徒 【敬愛】
3 心身が健やかで、活力のある生徒 【健康】

学校から実社会へ！世界を広げる2年生 移動教室(9月3～5日)











移動教室でお世話になった群馬県みなかみ町は、豊かな自然と上手に付き合いながら町づくりをしています。その取組が評価されて、2017 年に「みなかみユネスコエコパーク」として登録されました。世界自然遺産は手つかずの自然を守るのに対し、ユネスコエコパークは自然と人間社会の共生を目的とする取組です。みなかみ町のほとんどは森林で、農業や林業、自然を活かしたアウトドアスポーツなどの観光に力を入れています。

1 日目の一の倉沢ハイキングは、雨天のため途中で折り返すショートコースとなりましたが、ガイドさんの説明を聞きながら、雨の降る森の雰囲気を楽しみました。「これがクマの爪の痕です。なめらかなブナの木肌を雨水が流れ、根元にドンドンしみ込んでいきます。ブナ林は保水力が高く“緑のダム”と言われる所以です。楓の木の落ち葉からは、メープルシロップの香りがしました。」等、気付かないと通り過ぎてしまうことばかりですが、ガイドさんのお話で、発見の多い楽しいハイキングとなりました。地下 70m の日本一のモグラ駅（土合駅）も見学、ホテルでキャンドルファイアーを楽しんで 1 日目を終了しました。

2 日目・3 日目は、1 泊 2 日の宿泊体験です。農家などのみなかみの実生活を体験しました。宿泊先は、農家、リンゴ園、本当の自給自足を楽しんでいる家、ペンション経営の家などバラエティに富んでいました。同じ日本でもいろいろな生活があることを体験しました。そして、みなかみの方々との交流も楽しいひと時でした。初めて出会う方々とすぐに馴染み、気さくに話し合っている生徒の成長に驚きました。“もっと泊まっていたい”という生徒の声がたくさんありました。

最後に、郷土の工芸品づくりを楽しんで、みなかみ町を満喫して東京に戻りました。

しっとりと 奈良・京都の旅 3年生 修学旅行（9月8～10日）



修学旅行の大きな目的は、温故知新。昔の知識・経験を学び直し、そこから新しい見方・考え方や価値を得ることです。生徒が、奈良・京都で日本の伝統文化の理解を深め、これからの社会を創っていく発想を豊かにしてほしいと考えています。

グローバル化により、多くの国や地域の人々と理解を深め、協力して生きていく時代です。まずは自分の国の文化の理解を深めることが第一歩です。そのうえで他国の文化も理解し、多文化共生を実現する担い手に育ってほしいと期待しています。

19 世紀後半のジャポニズムに始まり、日本の文化はユニークだ、と海外の人に今も人気があります。例えば、漫画・アニメ、映画、コスプレ等の日本のエンタメ、日本の和食（ユネスコ無形文化遺産)、魂を込めて質の高いものづくりを行う職人文化、礼儀・勤勉・きれい好きと言われる国民性、語尾に「道」がつく芸事やスポーツ（書道、茶道、柔道、剣道等）等の日本の精神性、漢字、ひらがな、カタカナを合わせ、独自の感性や美意識を表現する日本語、神様（神道）と仏様（仏教）とを合わせて、独自の発展を遂げた日本の信仰や宗教（神仏習合）等々。





生徒の皆さんは、どのようなことに興味があるでしょうか。そして、「日本文化の特長は何ですか」と問われたときに、何を答えますか。人それぞれの答えがあってよいのですが、何も答えられないのは残念です。今回の修学旅行を通して、「今の私が考える日本文化の特長は、〇〇〇〇です」や「今の私の日本文化の推しは、〇〇〇〇です」と答えられたら合格です。



縁あって瑞江三中で出会った仲間と、古都を巡りました。素晴らしい文化遺産に出合い、清らかな心で仲間とのつながりや昔の人とのつながりを感じる。“少し頑張ってみようかな”と、よりよく生きる希望と勇気が湧いてくる。生徒の様子を見ていると、そのように感じます。ずいぶん成長したな、大人になったな、とつくづく感じます。

少し大人になった３年生と古都を訪ねることができました。しっとりとした、よい修学旅行でした。

「一唱懸命」　感動をありがとう！　学芸発表会（10 月 24 日）

開会式。３年渡邊寛介さんの開会の言葉、３年木賀琴音さんの実行委員長の言葉、１年原木桜祐さんの審査項目・鑑賞中の注意、と話が続きます。学芸発表会を成功させたいという意気込みが伝わってきます。会場は凛とした雰囲気に包まれ、午前の部、合唱コンクールがスタートしました。

２週間の取組期間、一生懸命に練習に取り組み、自分達の選んだ楽曲を、音楽の授業で学んだことを活かして、自分達の合唱へと創りあげていきます。そして、どの学級も、その学級ならではの合唱に仕上げました。本番では、どの学年もどの学級も、「一唱懸命」のスローガンの通り、一生懸命に歌う姿は共通でした。３年生ともなると、“よくぞここまで仕上げた”と子供たちの芸術性には感動しました。15 曲の合唱を聴き終わり、“一生懸命”は、人をこんなにも成長させ、人をこんなにも感動させるのだと、大変幸せな気持ちになりました。

午後の舞台発表は、日本文化を味わえた茶道部「お点前披露」、身近なできごとを深く掘り下げた弁論「今自分のできること」（２年髙田みずきさん）、デジタルを存分に生かした美術科「つながるアニメーション」と美術部「教育版ヘンゼルとグレーテル」、音楽の楽園（パラダイス）を作り出した吹奏楽部「Let's Get Hyped!」と、個性あふれる発表を楽しむことができました。



お互いの頑張りをたたえ合い大成功に終わった１学期の運動会同様に、お互いの素晴らしい合唱をたたえ合い、学芸発表会を終えることができました。